

熊本シティエフエム「もっと知りたい熊本～都市政策談話室～」

都市政策研究所 研究員 松永 歩

テーマ：明治後期における熊本の地域認識について—『地理教育鉄道唱歌』をてがかりに

(1) 今回取り上げる『地理教育鉄道唱歌』とは？

1900年（明治33）に国文学者の大和田建樹が作詞した唱歌です。これは、第一集から第五集まであります。この『鉄道唱歌』は、一地域だけでなく、日本各地を題材に作成されたものです。鉄道旅行を体験しているという感覚を聞いている人々に与えるものです。

この『鉄道唱歌』の中で、熊本という地域がどのように取り上げられたのかをご紹介します。

(2) 『鉄道唱歌』が登場するまでの時代とは、どんな時代？

明治期に入り、日本には近代化の波が押し寄せてきました。教育は、新しい国家づくりのためにその大きな役割を担っていました。ここで、重要になるのは、地理教育という観点です。それまで日本は鎖国していた訳ですから、世界を見渡せる地理感覚、地理能力が非常に重要だということでした。

この時代、地理教育は、大きく3つの立場がありました。

- ① 開化啓蒙主義の地理教育（福沢諭吉などがあげられる）
- ② 実用的知識の習得を目的とする地理教育
- ③ 国家主義教育的な地理教育

戦後までの時代の流れとともに地理教育も大きな流れとして、①→②→③と、このように移行していきます。『鉄道唱歌』が登場するのは、②の時期になります。

(3) さらにこの時期について教えてください。

生活実用のための地理の知識が必要とされた時代です。つまり、自分の住んでいる地域についての知識が重要だということでした。そのため、各地域で地理教科書が編纂されます。これは各地の師範学校が中心となって作成されました。

熊本の場合は、熊本県師範学校の『熊本県地誌略』が明治11年という全国的に見て、早い段階で作成されます。このような背景の下、1900年（明治33年）に最初の『鉄道唱歌』が誕生したのです。

更に、明治33年における熊本の鉄道事業の状況について確認すると、明治24年に高瀬—熊本間が開通しています。『鉄道唱歌』ができるまで、九州本線は、八代まで開通しました。

(4) では、熊本が登場する『鉄道唱歌』について教えてください。

作歌は、大和田建樹（1857—1910）という、国文学者です。作曲は、2人います。上眞行（うえさねみち）と多梅稚（おおのうめわか）という音楽家・教育者です。2種類の作曲があるのは、どちらか好きなほうで歌って欲しいという大和田の希望によるものだと言われています。なぜか、

おおの
多の曲がよく知られています。

熊本が登場するのは、第二集です。第二集では、山陽、九州地方が取り上げられ、68番からなります。登場する県は、兵庫、岡山、広島、山口、福岡、大分、佐賀、熊本、長崎です。熊本は、50～57番に登場します。

(5) 熊本のどんな部分が歌われていますか？

熊本の地名、地点が登場します。田原坂から始まり、熊本城、水前寺、錦山、本妙寺、花岡山、阿蘇など現在でも観光地として知られる箇所が登場します。白川、緑川、球磨川などの河川名も登場します。港である三角港、川尻、宇土、松橋、八代、天草などの地名も登場します。

(6) 地域と唱歌内で取り上げられる節の数、および地名・地点数は、どんな特徴がありますか？

兵庫、広島、福岡などが唱歌内では多く取り上げられています。一番多い福岡が16節、次いで兵庫、広島の9節、山口の8節です。熊本は、歌われる節数は7となっています。なぜ、福岡、兵庫、広島、山口が多いのか。

これらの地域では、源平合戦や日清戦争の下関条約(1895)といった歴史的事象、そして歴史上の人物が取り上げられているためです。福岡に関しては、菅原道真だけで8節さかれています。当時の唱歌が作成された時代状況を反映しています。

しかし、地域と地名の数からいうと、熊本は、取り上げられた節の数の割には、圧倒的に地名・地点の数が多く登場します。当時の日本各地で歌われた『鉄道唱歌』なので、当時の熊本の代表的なスポットがこの第二集の中で取り上げられていたと言えると思います。

さらに注目すべきは、熊本市の人口について、「九州一の大都会、人口五萬四千あり」とあります。明治33年12月の「熊本市統計年鑑」によると、56,081人となっています。まだ国勢調査(大正9=1920年)はない時代です。約2,000という誤差はありますが、人口に関する知識も歌詞に反映されていることがわかります。このことから、『鉄道唱歌』は、実用的な地理教育の一端を担っていたと言えると考えられます。